

# あの日、あの時

第7回 成田高校からプロ野球の舞台へ

市のさまざまな情報を発信している広報なりた。当時の出来事や取り組みが記された紙面からはその時代のまちの空気が伝わってきます。ここでは、これまでに発行された広報なりたを通して、まちの歩みを振り返ります。

成田高校野球部唐川投手表敬訪問

## プロ野球選手としての目標を語る

プロ野球パ・リーグの千葉ロッテマリーンズに入団が決まった、成田高校野球部の唐川侑己投手が11月30日、入団あいさつのため市役所を訪問。野球好きな小泉市長らと談笑を交わす中で、唐川投手は「プロとして今まで以上に志を高く持って野球に取り組みたい」と抱負を語り、小泉市長は「ファンに愛されるプロ野球選手になってほしい」と激励しました。



- ①入団のあいさつに市役所を訪れる  
(平成20年1月1日号)
- ②初出場のセンバツで躍動(平成18年4月15日号)
- ③サンクスホームタウン成田の試合でマウンドに上がる(平成20年7月15日号)
- ④フレンドシップシティ・プログラム協定で(平成29年3月1日号)

本市出身で、成田高校のエースとして春のセンバツに出場し、プロの舞台でも活躍してきた千葉ロッテマリーンズの唐川侑己投手が、今季限りで現役を引退しました。

平成18年、初出場のセンバツで小松島高校(徳島)打線を10奪三振で完封し、チームに勝利をもたらしました。翌年のセンバツにも出場し、その年の高校生ドラフトで1位指名を受けて千葉ロッテマリーンズに入団。以来、マリーンズ一筋で歩んできました。

プロ入り後も本市とのつながりは続き、マリーンズの公式戦に合わせて本市をPRする「サンクスホームタウン成田」では、先発のマウンドへ。球団と本市がフレンドシップシティ・プログラム協定を締結した際には、袖に「成田市」と入ったユニフォーム姿を披露しました。

成田から羽ばたき、プロの世界で積み重ねた19年。千葉ロッテマリーンズ背番号19番の歩みは、今季限りで一つの節目を迎えました。

令和8年10月15日号 No.1565



成田市のホームページ  
<https://www.city.narita.chiba.jp>

\*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

\*本紙は10月5日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

### 編集後記

市内を回中で目にした、台風25号の爪痕。冠水した道路、浸水した家屋、災害ごみの山。目の前の光景に、被害の甚大さを痛感しました。一方で、目にしたのは被害の状況だけではありません。ボランティアの皆さんをはじめ、復旧・復興に向けて動き出す多くの人たちの姿。人の温かさや支え合う力を改めて感じました。一日も早く、平穏な生活を取り戻せるように、市では、被災された方々に寄り添いながら支援を続けていきます。

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。